

## シラバス情報

授業方法	講義 ・ 実験 ・ 実習		
系 列	自動車工学		
科 目 名	四輪車構造		
必修・選択	必修科目 ・ 選択科目		
対象学科	二級自動車整備科二輪自動車整備士コース		
年次学期・曜日・時限	1年後期	・ 月曜日	・ 3・4時限
時 限 数	24時限（中間及び期末試験を除く）		
担当教員名	板垣 潮		
実務経験	有 ・ 無		
	国土交通省に認証された事業場における保守・点検・分解・組立など自動車整備士としての経験を活かし、整備を行う上で必要となるシャシを構成する各装置についての講義を実施する。		
授業の目的	操舵装置、ホイール、タイヤ、ブレーキ装置及びフレームを構成する各部品の構造・機能、及び、それらの装置の作動について講義する。		
テキスト	①三級自動車シャシ（日本自動車整備振興会連合会 発行） ②二級自動車シャシ（日本自動車整備振興会連合会 発行）		
授 業 計 画			
授業回数	テーマ	内容・方法等	使用テキスト範囲
第1回	操舵装置1	操舵装置の概要、種類、構造、作動、種類及び特徴について解説	①P.83~92 p98,p101
第2回	操舵装置2	パワー・ステアリングの構造、作動、種類及び特徴について解説 小テスト実施	①P.92~97
第3回	ホイール及びタイヤ1	ホイールの構造、種類及び特徴について解説	①P.107~109 ②P.107~108
第4回	ホイール及びタイヤ2	タイヤの構造、種類及び特徴について解説	①P.110~116 ②P.109~110
第5回	ホイール及びタイヤ3	タイヤに起こる異常現象について解説 小テスト実施	①P.116~117 ②P.111~114
第6回	ブレーキ装置1	ブレーキ装置の概要、マスタ・シリンダ、ブレーキホースの構造、作動について解説	①P.135~139
	中間試験	第6回までの授業内容に関する筆記試験	
第7回	ブレーキ装置2	ドラム・ブレーキの構造、作動、種類及び特徴について解説	①P.139~144
第8回	ブレーキ装置3	ディスク・ブレーキの構造、作動、種類及び特徴について解説	①P.144~147
第9回	ブレーキ装置4	パーキング・ブレーキの構造、作動、種類及び特徴について解説	①P.156~160
第10回	ブレーキ装置5	安全装置、ブレーキ液、Pバルブ及びLSPVの構造、作動及び特徴について解説	①P.148~151

第 11 回	ブレーキ装置 6	制動倍力装置の構造、作動について解説 小テスト実施	①P152~155
第 12 回	フレーム及びボデー	フレーム及びボデーの構造、種類及び特徴について解説	①P165~172
	期末試験	第1回～第12回までの授業内容に関する 筆記試験	
到達目標	操舵装置、ホイール、タイヤ、ブレーキ装置及びフレームの基本となる部品名称・構造・機能・作動を修得するとともに、それらの関連性を理解する。		
成績評価方法	平常点（小テスト、レポートやノートの提出とその評価、出席及び授業態度）、中間試験並びに期末試験を合算して行う。		
定期試験受験資格	開講された全時限に出席し、レポート・ノートの提出が完了している者。 欠席した時限がある場合は、補講も完了している者。		
成績評価基準	<p>成績評価は、期末試験の点数が40点以上を満足した上で、100点を満点とする整数について、次の割合で行う。</p> <p>中間試験の点数 30%  期末試験の点数 40%  平常点 30%</p> <p>上記の割合によって学期末の評点が60点以上である場合、以下によって評価する。</p> <p>60～69点 = 可、70～79点 = 良、80～89点 = 優、90点以上 = 秀</p> <p>60点未満の場合、再試験を行い、試験点のみで60点以上のとき履修を認定し、成績は60点 = 可とする。</p>		
成績評価できない場合の基準	全講義を終了時点の出席率が50%を満たしていない場合、又は、成績評価が60点未満の場合。		